

傍聴席

市議会を傍聴して感じたこと

T・Y（神代）

仙北市が誕生してはじめての、年度予算審議をすすめる定例会市議会を傍聴することができた。

一般質問をする議員が、二十人程で、三十七%に当たる方々が登壇するという熱の入れようでありました。私は第一目であったので、質問者のみんなは張り切って登壇する光景を目にすることができ、楽しくもあり、執行部に対する大きな期待すら感じるものでした。

それに比し、実質的に初日と思われるこの日の欠席議員の目立つことには、少々残念であった。

もっとも今春は議員選挙の年であり、尻の落ちつかない気持ちも分からないでもないが、定例会の席につくために議員になるのだから、その責は負っていただかなければと思うものです。

そして当局の答弁であるが、質問者の要求は市長であっても、市長は考え方に



ついて申し上げれば良いので、それ以外のことについては主要者（部長等）が答弁をするというようにしたらと、感じたところでは。

いくら有能な市長であっても、万般に亘る答弁はできないと思うし、それでも答弁をするとなれば、極めて一般的なものになり、市長の心随が計れないものに終わってしまう虞れも生じかねません。

もっとクールに、そして市が目指す方向が見えてくるようなものであってほしいと思います。

質問者からは、少子化をめぐる人口問題、子育て環境をめぐる対応等出されていたように思いましたが、これら根元にあるのは教育だと思えます。

加えて議員の地域における世話活動であらうかと思えます。双方が機能した時、必ずや人口も増加し、地域産業も盛んになるものだと思います。

地域づくりのために、市当局と今後選ばれてくるであらう、議員各位の更なる研鑽と度量を期待する一日でした。

十七年度 三月補正予算

仙北市一般会計補正予算他、特別会計補正予算（集中管理・下水道事業・集落排水事業・浄化槽事業・国民健康保険、介護保険、生保内財産区、田沢財産区、簡易水道事業事業、病院事業、水道事業）が補正される。

